

(様式3)

【学校用】

ふるさと教育 取組事例

学校名	益田市立西益田小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
4	総合的な 学習の時間	高津川たんけん調査隊	○高津川に詳しい地域の方、豊田・西益田公民館の方、校区内4園の園児、横田中生徒 ○高津川 ○鮎掴み取り体験 等
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の宝である「高津川」を通して、森と水の循環や生き物の生態など主に環境について考える。 ・高津川の恵みである「鮎」を通して、保育園と小学校、中学校、養護学校などとの交流を図り、他者と関わる力を養う。 	
<p>1 取組の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域を流れる「高津川」を中心に活動を展開し、源流（水源地一本杉）の訪問や上流でのガサガサ体験（3年生時の様子と比較しながら）を通し、環境や生き物について学び、「清流」高津川」と呼ばれるルーツを探る。 ・清流に生息する「鮎」のつかみどりや塩焼きづくり体験を通して、保育園・小学校・中学校の子どもたちが交流し多世代で関わる場を作る。（※今年度は、悪天候による増水のため、河川敷にて生簀で実施） <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。</p> <p>（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地元地域の保育園・小学校・中学校・養護学校・公民館などたくさん子どもや大人が関わることによって、域の“ひと”に対する交流がある。 ○毎年、定められた学年（年長・小4・中3）で実施することによって、保～中までの3回の実施の中でそれぞれの世代での関わる力（参画意識）の変化を、子どもも地域の方もそれぞれの立場で感じることができる。 <p>（学力育成の視点から）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○活動を通して、多世代で関わることにより、コミュニケーション能力を養うとともに、発達段階に応じて、主体的に参画する態度を身に着ける。 ○環境や川に住む生き物の生態について学習し、自然を愛する心情や、意欲的に自然の事物・現象に関わろうとする態度を養う。 <p>3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）</p> <p>（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保育園・小学校・中学校・養護学校・公民館などたくさん子どもや大人が関わりあうことによって、より親密な交流や多様な人へのふれあい生まれ、「こんなひとになりたい！」という幼少期から大人までの憧れの連鎖に繋がっている。今回は、生簀での実施となったが、活動範囲も限られ、ふれあい・関わり合いの場面もより多く見られた。 <p>（学力育成の視点から）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ふるさとの宝である高津川や鮎を使った直接体験を通して、身近な高津川に対する意識が変わり、自分たちも高津川の魅力を発信したいという思いを持つことができた。実際に体験を踏まえた新聞作りや学習発表会を通して、高津川の魅力を地域の方にも伝えた。 <p>4 課題や今後の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回は、天候の関係で例年のような形での実施は難しかったが、これまででもできる形で継続してきた。これは、コロナ禍でも同様である。西益田地域が目指す「大人も子どももまちづくりの主体者になろう」を、活動の中で位置付け、学校も地域も同じ方向を向いて、持続可能な学習活動を続けていきたい。 			

*取組の様子がわかるような写真を数枚貼り付けてください。

(このデータをHP等に掲載することがありますので、写真は必ず承諾を得たものを貼り付けてください。)



西益田地区の「ふるさと教育推進事業」の一環として、子どもと大人が一緒に活動しています。

子どもも大人も「まちづくりの主体者」になろう！

子どもたちは、やがて大人になり、より良い社会を創る主体者になることが期待されています。

西益田地区でも、子どもたちが主体的な立場から、まちの課題解決に向けて、アイデアを出し合い、汗をかきながら、活動する機会が増えています。そうした活動を通して身につくのは、以下のようなことです。

コミュニケーション能力

自己肯定感

「ふるさとへの愛着」 「本物の誇りの価値」

西益田地区では、保育園、認定こども園、小学校、特別支援学校、そして地域の大人が、協働でさまざまな教育活動を展開しています。みんなが西益田の子どもたちを、未来のまちづくりの主体者に育てていきます。

それは、子どもたちに教えたことではありません。自分たちの地域のことを自分たちで考え、探り、楽しみ、誇りに思ってもらって、誇りがあってくれるようになって、地域のことを自分ごととして捉えていく。子どもたちの活動を通して、子どもも大人も育ちあうことを大切にしています。

だから、私たちは、言葉します。

**世代をこえて名前を呼び合える
人と人のつながりの見える
笑顔なまことにしますぐ！**



子どもと地域がつながると・・・

1. 子どもたちにとって

まなびにむかう力

じぶんをすきになる力

だれかとつながる力

- 魅力のある大人を知る
- 自分の役割を考える
- 多様な価値観に出会う
- 自分を振り返り、自分の成長を感じる
- 認めてくれる人、認めてもらえる場、瞬間、思い出が増える
- 助ける・助けられる、観る・観られる心地良さを覚える
- 安心できる居場所が増える
- 見方・捉え方・考え方・興味関心が広がる
- さまざまな人に関わることで対話力・コミュニケーション能力が高まる

2. 大人たちにとって

- 自分のできることを活かし、力を発揮できる（やりがいづくり）
- さまざまな年代の子どもたちとあれこれ、その成長が喜びになる（元気づくり）
- 子ども自身にもさまざまな力があることを知る（子どもから学ぶ）
- 子どもたちの姿を通して、西益田の再発見ができる（大人のふるさと学習）
- 立場の違う人、幅広い年代の人と関わることで、価値観が広がる（誇りの深まり）

これが西益田ブランド！
子どもと地域がとぎれない！
地域での体験の積み重ねがたくさんある！
魅力的な大人がたくさんいる！

西益田プロジェクト

①保育園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校、そして地域が協働して創る教育活動 2021年度の取組

活動名	In 地域の中でどっぷり遊ぶ		About 地域の中でしっかり学ぶ				For 地域のために行動する		With 輝く地域の大人と協働する		
	保育園 認定こども園	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	高校生
稚拙の放流 川遊び交流	下校の見守り サツマイモづくり 川遊び交流 秋みつけ交流	サツマイモづくり 町探検1 町探検2 生んでくれてありがとう 地域の人ありがとう会	ガサガサ 特別支援学校との交流 つみ調査と生き物調べ 警察署見学 まち探検	高津川の学習 鮎釣り名人 鮎焼き名人	夢先生(※) 開伐体験	益田版カタリ場(※) 熱煙教育 西益田の未来！(※)	郷土の文化で学ぼう 命の授業 特別支援学校交流学習	保育実習(※) 益田版カタリ場(※)	高津川鮎体験交流(※) 川遊びの体験 保育実習 新・職場体験(※) イキカズズカン 野外炊飯のレレ作場 門松制作	有隣館外 スターみらいたび 津和野高校) 灯火祭 益田高校、益田翔陽高校)	
秋みつけ交流 賑あげ大会		清流マラソン なかにしカルタ会	竹灯籠制作 石見神楽について知ろう(特)	特別支援学校		サツマイモの苗植え サツマイモ掘り 陶芸教室 芋の調理活動					
地域貢献活動(益美 寄宿舎生徒との交流 益美)		鮎つかみ(例年は高津川鮎体験交流)		鮎つかみ(例年は高津川鮎体験交流)		川遊び(かた) 書き初めのアドバイス 様々な楽器の音色に触れよう(カサカサ和太鼓・トーンチャイム) 門松づくり				自然を味わう鮎つかみ、鮎焼き 様々な楽器の音色に触れる 事、和太鼓、トーンチャイム) 地域貢献プロジェクト マンガをつくらう 探究 西益田の都市伝説)	
公民館を核とした地域の活動											
稚拙の放流 釣り教室 親子川流れ 学びの場 新・みずいろ公園プロジェクト											
そのほか子どもの学び(活動)の場・子どもも学べる(活動できる)大人の主体的な学びの場など											
PTA	ボランティアハウス	わくわくクラブ	VISPO(サッカー)	西益田MBC(バスケットボール)	ウエスト益田(野球)	いなずま会	子ども会	つながるクラブ			
子どもたちの主体的な取組・活動											
中学生：親子川流れ交流会の企画・運営(ゴザレース・クイズ)、河川敷への活動の広場づくり、のぞみの里の草抜き、灯火祭の企画・運営、おたすけレンジャー										高校生：灯火祭のサポート	

②次のような視点を持って、活動をより良くしていく

1. 活動の中で、大人と子どもの対話があったか？
2. 子どもたちは、安心感をもって活動できていたか？
3. 大人も子どももふるさとへの愛着を高めることができたか？
4. 子どもたちの主体性を育むことができたか？
5. 子どもたちは、いろいろな人からほめてもらったり、「ありがとう」と声をかけってもらったりできたか？
6. 子どもと大人、大人同士のつながりは生まれたか？
7. 子どもたちとの活動が、大人にとって『良い時間』であったか？
8. 楽しさ感、フレンドリー感、活動大好き感があったか？



エピソード

★「イモリや鮎を助★つろうて協力者の会・保小中特教職員合同研修会
『WITHの会』が7月に横田中学校体育館で開催された。
西益田小4年生が作成したポスターを、地域にある子どもたちの活動やその価値、大人にとってどんな意味があるのかということが共有された。「学校という場所に留まらず、自分たちを育ててくれたこの地域をもっと盛り上げていきたい。地域を支えられる学校にしたい。」という横田中学校生徒の発表は、来場した教職員や地域の大人を大いに唸らせた(中学生の姿)

★今年度の総合的な学習の時間において、鮎の捕まえ方、釣り方や道具まで、地域の達人から「特別授業」を積み重ねた西益田小4年生たちも、鮎体験交流当日、鮎つかみに苦戦する子どもたちに、連日は居ても立ってもいられなくなり、担当する川舟を離れて「OOくん、ごうやるんじゃ!」と駆け寄って来られた。「OOさん、ありがとう!」と応じる子どもとの間に、名前でも呼ぶ関係性が応じて取れる一場面であった。(小学生と地域の大人の姿)

表中の(※)は、横田中学校区ライフキャリア教育プログラム

*取組の様子がわかるような写真を数枚貼り付けてください。
(このデータをHP等に掲載することがありますので、写真は必ず承諾を得たものを貼り付けてください。)